

ELISA 測定における妨害物質の影響（溶血と乳び）

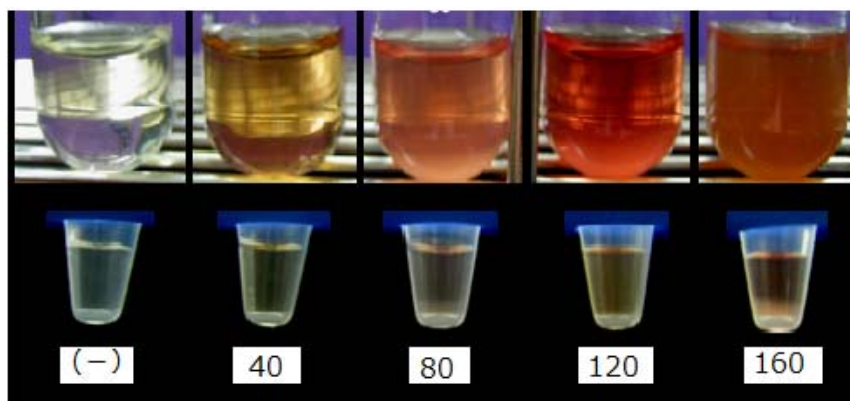
測定検体中の妨害物質

一般的に測定検体は様々です。例えば、採血の際の溶血、血中脂質、麻酔の有無、麻酔薬の種類（特にエーテル）、血清を採取する場合の分離促進剤、血漿を採取する場合に使用した抗凝固剤、検体が常温、低温で放置されていた間に起きた炭酸ガスの消失と pH の上昇、保存料として加えられた薬物、保存中に起きた血液成分の濃縮、変性などの要因が測定検体には加わっています。このような要因が ELISA 測定系を妨害する可能性があります。これらの要因の中で溶血、血中脂質は見た目である程度判断することが出来ますので下の色見本をご参考にしていただき、許容範囲を超えている検体は測定に使用されないことをお勧め致します。

※この色見本はご覧になるモニター、プリンター等により色が異なりますので目安としてお考えください。

溶血状況の一例

溶血度合いをヘモグロビン濃度で示しています。測定系によりヘモグロビン濃度の許容範囲が異なります（単位は mg/dl）。



各キットヘモグロビン濃度許容範囲（血清/血漿原液）

<p>40mg/dl まで</p> <p>レビス® インスリン-マウス T レビス® インスリン-マウス(U タイプ) レビス® インスリン-ラット T レビス® インスリン-ラット(U-E タイプ) その他のインスリン測定用キット レビス® GLP-1(Active)</p>	<p>80mg/dl まで</p> <p>レビス® 高分子-アディポネクチン-マウス/ラット レビス® プロインスリン-マウス/ラット レビス® C-ペプチド マウス(U タイプ) レビス® C-ペプチド ラット(U タイプ) レビス® GH-ラット レビス® IgE マウス用/ラット用 レビス® TNF-α -マウス用/ラット用 Rabbit ApoB-48 ELISA 「シバヤギ®」 Human Nesfatin-1 ELISA 「シバヤギ®」</p>
<p>120mg/dl まで</p> <p>レビス® FSH-ラット レビス® LH-ラット レビス® TSH-ラット(R タイプ)</p>	<p>160mg/dl まで</p> <p>レビス® レプチン-マウス レビス® レプチン-ラット(U タイプ) レビス® 抗 dsDNA-マウス/抗 ssDNA-マウス レビス® リウマチ因子 IgG 型/IgM 型-マウス レビス® OVA-IgE/IgG1-マウス Human ApoB-48 ELISA 「シバヤギ®」</p>

乳ビの一例

検体（血清／血漿など）の乳ビはカイロミクロンや中性脂肪、VLDL またはイントラリポス、イントラファットなど（投薬実験の場合）に起因します。それらはそれぞれの脂質粒子径が異なりますので、含有成分率が異なると乳ビ度合いは含有濃度と相関しません。そのため、乳ビをホルマジン濁度で表しご案内しております。下の写真はホルマジン濁度で 1000 となります。これ以上の場合は測定に影響が出ると考えられます。ただし、これ以下であっても影響がでる場合があります。絶食後の採血をお勧めします。

